

2018 Vintage Report for Spain

ここ数年、乾燥と暑さの中での収穫が続いてきたが今年はスペインに雨をもたらした。しかも地域によっては初夏まで雨が続いた。気候は涼しく、ぶどうはゆっくり順調に成長しながらも、収穫量や病害については徹底管理する必要があった。

収穫は遅めのスタートを切ったものの、スペイン全土を通じて天候は良好、秋も深まる中、円滑に行われた。そして昨年より収穫量は増加、これは、スペインが、更に競争力のある立場になることを予測させる。

品質についていえば、徹底したぶどうの品質管理そして畑やワイナリーでのぶどうのセレクションをきちんと行ったところに質の高いワインが期待できる。今年の水のスタイルについては、しばしば「more Atlantic (より大西洋的)」と記述されることがある。それはより冷涼で豊かな香りに満ち、アルコール度数はやや低め、そして品種の特性が十分表現されているということ。これは、若いワインのみならず樽熟成のワインにとっても良い兆候といえよう。

—気候：例年に比べ雨の多い涼しい年であったが、スペインの多くの地域において収穫時期は天候に恵まれた

—地域の見所：リベラ・デル・ドゥエロ、ビエルソ、カスティーリャ・イ・レオンそしてバルデオラスの多くの地域において、より良い年といえる。カンポ・デ・ボルハ、モンテレイ、リオハやカリニェナについても生産量の増加を記録した

—ワインの特徴：フレッシュさに加え適度なアルコール度数、そして品種の特性が十分表現されたスタイル

—生産量予測：4800 万 hl (ワインとマストを含む、OEMV 発表)

著者 Patricia Langton 2019 年 1 月

2018 年におけるスペインの収穫レポートは次の地域に分けて行われている。

1. ガリシア地域：リアス・バイシャス、モンテレイ、リベイロ、リベイラ・サクラ、バルデオラス
2. カスティーリャ・イ・レオン地域：ビエルソ、シガレス、ティエラ・デル・ピノ・デ・サモラ、ティエラ・デ・レオン、リベラ・デル・ドゥエロ、トロ
3. 北部地域：リオハ、ナバーラ
4. アラゴン地域：カンポ・デ・ボルハ、カラタユド、カリニェナ、ソモンターノ
5. カスティーリャ＝ラ・マンチャ
6. カタルーニャ、マヨルカ、及び東スペイン
7. ヘレス

1. ガリシア地域

D.O.リアス・バイシャス

ぶどうの生育期は、今年は降雨量が多く、穏やかな夏の気温が特徴といえる。5月まで雨に加え低温が続き、収穫量の減少が懸念された。小さなサブ・リージョンでは困難な条件に直面、例えば、コンダド・ド・テアではベト病と、オ・ロサルでは開花時期の悪天候による生産減などだ。

8月から9月にかけて穏やかな気温の晴れた乾燥した天候が続き、成熟期は安定し、収穫は9月初旬に始まり、品質は概ね非常に良好だった。

コンダドのテラス・ガウダ・ワイナリーの技術部長のエミリオ・ロドリゲス氏は今年の収穫に満足を示す。彼によれば、「9月中旬にかけて日照時間の増加と理想的な気温のおかげでバランスの取れたぶどうを得ることができました。2016年や2017年はアルバリーニョ特有のアロマに欠けていましたが今年は違います。アルバリーニョがもつ特性が十分、表現されています」と語った。

DO全体では収量はわずかに下がったもののバル・ド・サルネス・リージョンの主要地域では予想を上回る収量増となった。

2018 3860万kg

D.O.モンテレイ

今年は記録的な収穫量を呈した。9月15日から10月にかけて異例な長い収穫期間でもあった。春は雨が降り、5月、6月、7月の平均気温を下回る涼しい天候のため、ぶどうはゆっくりと生育した。遅い収穫期を迎えたが、同時に乾燥した理想的な天候は地域の多様な品種において最適な成熟をもたらせた。特に白品種ゴデーリョに素晴らしい品質が期待されているが、ほかにもトレイシャドウラ、ドーニャ・ブランカ、ローレイラ、また主にメンシアから造られる赤ワインも高品質が期待されている。

2018 560万kg (白369万kg、赤190万kg)

D.O.リベイラ・サクラ

ガリシアを代表する赤ワインのD.O.ーリベイラ・サクラー、生育期に病害や雹に見舞われながらも収穫時期、天候に恵まれたのが幸いであった。

近隣地域同様、収穫は9月中旬に始まり、夜間の気温の低さの恩恵もあり順調、白赤両品種ともに優れた酸度レベルを示している。リベイラ・サクラでは今年初めて夜間の収穫が行われた。39日間に渡った収穫は全般的に満足なであった。

2018 620万kg (メンシア：520万kg)

D.O.バルデオラス

2017年の不安定な天候の後、今年の収穫は良好、健全な果実を得ることが出来た。この地域の収穫報告によると、ゴデーリョはやや高めの酸度と最適な成熟度に達し、素晴らしい味わいになるであろう。その一方、果実が見事によく熟したメンシアから造られる赤ワインは、若いワイン、樽熟成ワインの両方に秀逸な味わいが期待できる。

2018 470万kg 前年比15%増

D.O.リベイロ

リベイロのぶどう畑は病害の影響を受け生産量は下回った。良好な天候のもと果実は健全に熟したものの、今年は特に収穫期のぶどう選果に注力することとなった。

合計 900万kg (830万kg；785,000赤) 暫定収穫量

2. カスティーリャ・イ・レオン地域

D.O.ビエルソ

2017年とは大きく異なる収穫結果となった。生産量は26%増加し、ワインはアルコール度数低めで「フレッシュ感のある Atlantic スタイル」と表現される。地方当局によれば、ぶどうの品質は「秀逸」とされた。

2017年の春霜に襲われたぶどうの木は見事に回復し、発芽時期はこの地域の一般的な4月の1週目、2週目に迎えることができた。

特に6月7月の通常より冷涼だった発育期の雨が大きな関心事であった。

2018 1130万kg (メンシア 890万kg)

D.O.シガレス

収穫レポートによれば、今年は「生産高も良く、ぶどうの品質は秀逸」と宣言している。2017年の収穫は悪天候に見舞われたが、今年の実産量は40%増、この回復にワイナリーはじめ生産者は安堵している。

シガレスの主要品種はテンプラニーリョで赤ワイン、ロゼワインの大事な役割を果たしている。これらは、バランスのとれた香り高い若いワイン同様、熟成のポテンシャルを秘めた骨格のある赤ワインになると大いに期待されている。ガルナッチャは、このD.O.においては少量だが、ロゼや単一品種ワインへの道を広げながら、新しいトレンドを作りつつある。

2018 800万kg

D.O.ティエラ・デ・レオン

今年の収穫量は昨年、一昨年の難しいヴィンテージに比べ、予想を上回る増加をもたらした。主要ぶどう品種であるプリエト・ピクードは回復した。白ぶどうのアルバリンとベルデホもこの地域で注目を集めている。フレッシュで香り豊かな白、ロゼ、様々なスタイルを呈する赤ワイン、ともに大きな期待が寄せられている。

2018 380万kg

D.O.ティエラ・デル・ピノ・デ・サモラ

雹、うどん粉病、べト病などの被害にあった幾つかの地域を除いて、概ね満足のいく収穫であった。

2018 644,273kg ; 53%赤 (主にテンプラニーリョ) ; 白 47% (ベルデホ、マルバシア、モスカテル、アルビーリョ)

D.O.リベラ・デル・ドゥエロ

今年は順調な生育期を経て状況は好転した。冬から春にかけて降雨量が多く、珍しく霜も発生したが2017に比べれば軽度であった。前年の霜被害からの畑の回復は生産者にとっても目を見張る驚きである。雨天による病害の発生もなく、収穫に至るまでの成熟期も問題はなかった。

7月は例年より低い気温であったが、9月、10月は晴天に恵まれ平均気温を上回り、9月中旬から10月にかけての通常より長い収穫期間となった。前年の霜害の影響を受けた小房は早熟気味、より大きなものは成熟が遅かった。

このヴィンテージからのワインは、秀逸なぶどうによるフレッシュ感あるスタイルを予測させると共に、また軽快で若々しいスタイルから樽による熟成まで汎用性の高いポテンシャルのある赤ワインになりうる可能性がある。

エミリオ・モロ・ワイナリーの技術部長アルバロ・マエストロ氏は今年のワインに対して大きな期待を寄せる。「2018 ヴィンテージは2016年、2014年同様、良いバランスといえよう。アルコール度数は高すぎず、ぶどうが熟し過ぎた感じもなく、優れた酸度が引き締めています。ワインの色調は健全、長期熟成に適した可能性を秘め、また芳醇な香りに満ちています」と語った。

2018 12500万kg 2017年は5500万kg

D.O.ルエダ

ルエダの畑は2017年の霜の被害と非常に乾燥した天候からの回復を見せたが、春から初夏にかけての雨と低めの気温は、ぶどうの発育を遅くさせ厳しい気象条件をもたらした。そしてペト病やうどん粉病、雹の発生もあった。しかしながら収穫期は天候もよく、通常どおり、ソーヴィニヨン・ブラン、ベルデホの順で収穫が行われた。

フェリックス・サンツ・ワイナリーのアルベルト・ウストレル氏は品質、量の両面でも素晴らしい結果になったことに満足している。「高品質ワインに欠かせないフレッシュさと相応しい酸度、そして低めのアルコール度数を我々は得ることができました。」また彼は、異なる品質レベルのルエダワインについて好ましいビジョンを持っている。2018年は、小規模で品質重視の生産者にとっては良い実績につながるであろう一方、主流のカテゴリーとして、コストパフォーマンスに秀でたワインになると信じている。

2018 13050万kg (主にベルデホ)

D.O.トロ

ぶどうの生育期は、ことしはこれまでより冬と春に雨が多く、5月にあった若干の霜が心配の種となった。7月には通常より涼しかったこともあいまって、ティンタ・デ・トロ種はいつもより遅い収穫開始となった。地域による成熟度の違いもあり、収穫はとりわけ長くかかった。

ぶどうの品質については「フレッシュ感がありバランスに優れた健全な、ぶどうである」と表現された。初期の段階では、今年の赤ワインは、昨年のものに比べてフレッシュ感があり、やや弱めのストラクチャーだが「ほどよい凝縮感あるフレーバーと長期熟成の大きな潜在力を秘めた」ワインであると報告されている。

2018 2200 万 kg (主にティンタ・デ・トロ)

3.北部地域

D.O.Ca.リオハ

リオハの当局の報告によれば、2018年は「大西洋の影響を大きく受けた複雑な年」と表現されている。特に春と初夏の生育期には何ら問題は起こらなかった訳ではない。春は多量の雨により寒く湿度が高く、そのため発芽が遅れ、また、にわか雨による病害が発生し対応に追われた。初夏も雨が多かったが8月にかけて暑い晴れた日が続 き、生育の遅れを取り戻すことができた。9月は例年より涼しく、そのためバランスの取れた果実になった。しかし、収穫期は、温暖な地域は8月下旬に、9月後半に本格期を迎え、そして最後の収穫が11月半ばまでずれこむほど長期に及んだ。

今年の収穫高は昨年に比べはるかに増加したが、ワインのスタイルは、より軽快で、涼しい年を反映して近年より少し低いアルコール度数であると言われる。

リオハの北西部（リオハ・アルタ）に位置するウルピナ・ワイナリーのアンヘル・ベニート氏は次のように語っている。「春の雨が開花時期に影響を与えたため、自ずと収穫量は減少しました。ワイナリーとしては、年によって必要な生育の初期段階でのグリーンハーベストは必要ないと判断。開花期の間、より繊細なガルナッチャよりテンプラニーリョはうまくいきました。」

続けてベニート氏は、2018年はぶどう畑において「専門技術を必要とした年」と述べている。初夏の雨季や時折襲ってくる嵐の中でも畑に最適な条件を確保するよう不断の努力を要しました。病害を発生させず、「通常の収量」とワインの品質を得るためにグリーンハーベスト（摘果）をし、過度な成長を制御しなければならなかった。

彼は、次のように結論づけた。2018年はここ5年間より涼しかった。若いワインには「通常」の凝縮感と澁刺とした酸がみられ、この「より典型的な年」からの素晴らしい熟成の可能性を感じさせる、と。

温暖なリオハ・オリエンタル（バハ）のアルデアヌエバ・デ・エブロにあるメディエボ・ワイナリーの技術部長、サンティアゴ・ガルデ氏は2018年を次のように表現する。この地域としては「珍しく」、非常に雨が多く、特に樹齢の若い畑では生産量が多くなる現象が起こった。「我々にとって涼しい年は有難い。収穫は遅くなったが、とても暑かった2017年に比べ、軽快でフレッシュ感あふれるワインになりました。」
続けて彼は、晩熟は問題となる可能性があったが、10月の好天がぶどうを完熟させ、通常より遅くなったとはいえリオハ・バハの収穫に安定をもたらしたと付け加えた。最後に「このヴィンテージから造られるワインは、「よい（good）から更に素晴らしいワイン（very good）になるでしょう」と、まとめた。

2018 48600万 kg （88%が赤、12%が白）

D.O.ナバーラ

今年の収穫量は30%の増加、9月の素晴らしい好天はこの地域の多様なぶどう品種の品質を高める結果となった。シャルドネ、ガルナッチャ・ブランカ、モスカテル・デ・グラノ・メヌードを含む白ぶどうが生産高の13%を占め、テンプラニーリョ、ガルナッチャ、メルロー、カベルネ・ソーヴィニオンそしてグラシアーノが残りを占めている。

2018 7800 万 kg

4.アラゴン地域

D.O.カンボ・デ・ボルハ

収穫量の少なかった昨年より収穫量は、はるかに増加し、この地域では記録的な年となった。当局によれば、様々な気候要因が量と質に有利に働いたという。豊富な雨量が冬から春にかけて十分な水の蓄えとなり、霜や雹被害もなかった。開花時期、結実も順調に進み（ガルナッチャにとっては大きな利点）、夏から秋の良好な天気、成熟そして堅実な収穫をもたらした。

2018 4420 万 kg（49%ガルナッチャ）；前年比 82%増、10年平均より 56%高を記録

D.O.カラタユド

冬季は乾燥して寒く、雨や雪は少なかった。発芽期は、期待通りの収穫をもたらすであらうと期待させる良いスタートをきった、しかし、低温と降雨は、幾つかの地域、特に、ここ数年の異常乾燥によって既に弱った古木のぶどう畑へ影響を与えた。

夏は通常より涼しかったが 8 月下旬から 9 月にかけては気温が上昇した。荒れ模様の天気もあったが、この適度な雨量が収穫前のぶどうの生育を促した。今年の収穫は期待されたより少なかったものの、よい品質を予兆させる小さく健康な粒の密集していない房をつけた昨年に劣らない。

2018 1120 万 kg（主にガルナッチャ） 2017 年の 35%増

D.O.カリニエナ

今年は好条件に恵まれた。昨年に比べ収穫量は増加、10年平均の 29%増を記録した。

2018 10960 万 kg

D.O.ソモンターノ

十分な雨量と成熟期に有利な好条件がそろい、収穫量は 20%増となった。通常より遅い 8 月末にソーヴィニヨン・ブランとメルローが収穫され、テンプラニーリョ、カベルネ・ソーヴィニヨン、ガルナッチャは最適な成熟に至るにつれ、ゆっくりとほぼ 2 か月収穫が進行した。その間 4 日ほどの雨による中断しかなかった。

ビーニャス・デル・ベロ社のオーナーであるゴンザレス・ビラス社によれば「白ぶどうのほうが一般的に黒ぶどうより熟しやすい。樹上で長い時間をかけて成熟したということは、芳醇なアロマの特性と美しい色を得られたということである。

2018 1870 万 kg

5.カステイーリャ・ラ・マンチャ

D.O.ラ・マンチャ

地域にもよるが、収穫量は近年と比較して多いと言われ、前年比 15～20%増となった。幅広い品種にわたり、ぶどうの質は良好で、昨年に比べ、赤も白も涼しい気温とゆっくりとした成熟期を経て、軽快な酸と調和のとれた内容となった。収穫期間は長く、10月中旬に終了した。

2018 情報未入手

6.カタルーニャ、マヨルカ及び東地域

D.O.カタルーニャ

収穫量と収穫日数の観点から見れば典型的な年でした。雹と春に霜が発生するという極端な例もあったものの、それらは最終結果に大きな影響を与えることはなかった。ぶどうの品質は収穫時点で「非常に良く」、アルコール度数は昨年より、やや低めである。

2018 4970 万 kg 2017 年に比べて 12%増

D.O.ベネデス

昨年とは異なり、収穫時期は比較的遅くなった。予測不可能な天候にも関わらず恵まれた結果となった。ミゲル・トーレス・ステートからのレポートによれば、この地域は他のカタルーニャ地域に比べて4月～10月にかけて平均気温より高い状況が続いたからだという。全体的に「ゆっくりと着実な成熟」と表現し、収穫までの準備段階における涼しめで湿気の高いコンディションにより、ベト病や灰色カビ病対策には骨を折ったが、最終的な品質は満足のいくものだったとトーレス社は言う。

ぶどうは全体的によく熟し、トーレス社は次のように強調する。今年のシャルドネ、テンプラニーリョ、モスカテル・デ・フロンティニャンの「熟成は素晴らしい」と。

2018 5200 万kg

D.O.Q.プリオラート

適度な降雨量と大きな問題のない生育期の天候に恵まれ、収穫は増加した。

セラー・カル・プラのジョアン・サンジェニ氏は、この地域としては、かなり暑い年が続いた後にしては2018年「少し不思議だった」とする。彼は続けて「真夏は通常よりずっと涼しく、ぶどうはゆっくりと成熟していき、これがよかった。この地域では過去にはこのようであったことを思い出させた」「ぶどうの品質はとてもよかった。骨格、風味（フレーバー）、酸という点で非常にバランスがよい」と付け加えた。サンジェニ氏は、今年は、すべての品種について熟成がよい、特にガルナッチャが秀逸だと述べた。

ミゲル・トーレス・ワイナリーによれば、安定したぶどうの生育による満足なヴィンテージであり、今までとは異なり、穏やかな夏の気温と適度な水分のおかげで、多くの年とは異なり、ぶどうのストレスは少なく「パーフェクトな成熟」を迎えた。要約すると、今年のプリオラートワインは、近年のものと比較して、スタイルがかなり違うものとなるであろう。

2018 情報未入手

D.O.モンサン

2017年に比べて収穫量は微増となった。ガルナッチャやカリニエナが主要品種で、全体の90%を黒ブドウが占める。740万kg

D.O.ビニサレム (マヨルカ)

この地域を代表する赤の主要品種であるマント・ネグロ、そしてモルとモスカテルは最後に収穫され、10月5日に終了した。8月から9月にかけてのかなりの雨量のせいで、生産者にとって今年は困難な年となった。つまり、最終的に品質の高いワインを得るため、畑やワイナリー双方でのぶどうの選果が、いかに重要になったかということである。

2018 160万kg

D.O.フミーリャ

フアン・ヒル・ワイナリーのミゲル・ヒル・ベラ氏は2018を振り返る。2018年はとても「異なる年」であった。雨量がはるかに多く涼しい気候が、得られたぶどうの品質と今年の収穫からできるワインの特性に影響を与えた。

ほぼ理想的な春と恵まれた夏を迎えたが秋は通常より雨が多く、難しいヴィンテージとなった。そして11月初旬まで続く長い収穫期間でもあった。ヒル氏は続ける。「畑では数回に渡り収穫を行わなければならない、ワイナリーでは注意深く選果をし、全体的には健全なぶどうを得ることが出来た。今年のワインはストラクチャーに欠け、通常よりバルサミコ風味の要素やアルコールボリュームも低い。」

生産高は昨年より20-25%増

2018 6000-7000万kg (おおよその数字)

D.O.ヘレス

雨が多く、特に3月～5月にかけてが多かった。初夏は通常より気温が低く、またレバンテ風（東から吹く乾燥して熱い風）が数日吹き荒れた。その結果、ぶどうは比較的ゆっくり生育し、収穫は通常より遅い8月23日に開始された。

最後のパロミノ品種は9月中旬に収穫された。今年は厳しい天候もあったが品質に対する全般的な満足感がある。収穫量はかなり多く、2017年の8.6%増となった。

2018 8100万kg